

長野市水道ビジョン・水道事業経営戦略(案) に対する市民意見等の募集(パブリックコメント) の実施について

令和7年1月7日

上下水道局 総務課 水道整備課



長野市上下水道局
イメージキャラクター
みずなちゃん

(1)長野市水道ビジョン(H21年策定、H26年改定)とは

水道が市民生活を支える重要なライフラインの一つとして、信頼性を高めニーズに応じた質の高いサービスを提供していけるよう、50年後を見据えた将来像とそれに向けた事業の方向性の基本となる目標、方針、主要施策を示し、10年間の実現方策を定めたもの。

(2)長野市水道事業経営戦略(R4年～)とは

長野市水道事業経営戦略は、長野市水道ビジョンに掲げた基本となる目標、方針の実現に向けた中長期的な経営の基本計画で、水道施設の更新・整備等に関する投資計画と、水道料金を主体とした財源の見通しを試算した計画で構成され、収支の均衡が保たれた「投資・財政計画」。

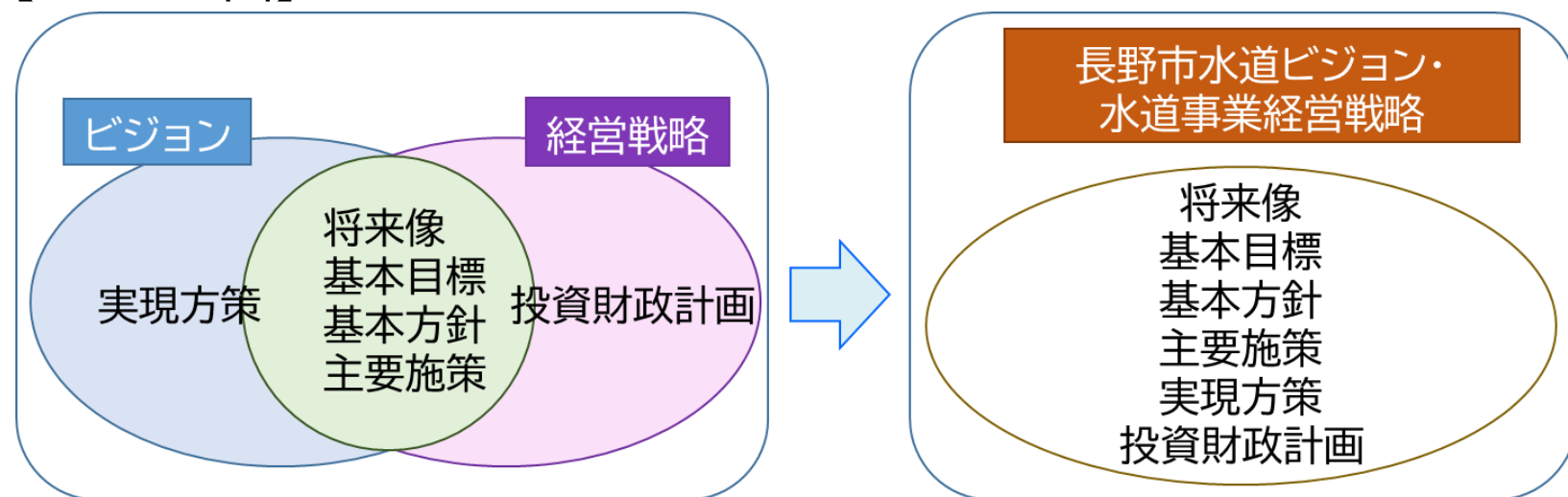
経営戦略の計画期間は10年間で、人口減少等の社会情勢の変化を的確に反映できるよう、概ね4年ごとに改定を行っている。

(3)改定の方針

3

本市の水道事業が目指す将来像等と、その実現に向けた取組の内容、状況を、わかりやすく一体的に示せるよう、ビジョンと経営戦略を合わせ、令和7年度から令和16年度までの10年間を計画期間とする「長野市水道ビジョン・水道事業経営戦略」を策定する。(概ね4年に一度改定)

【イメージ図】



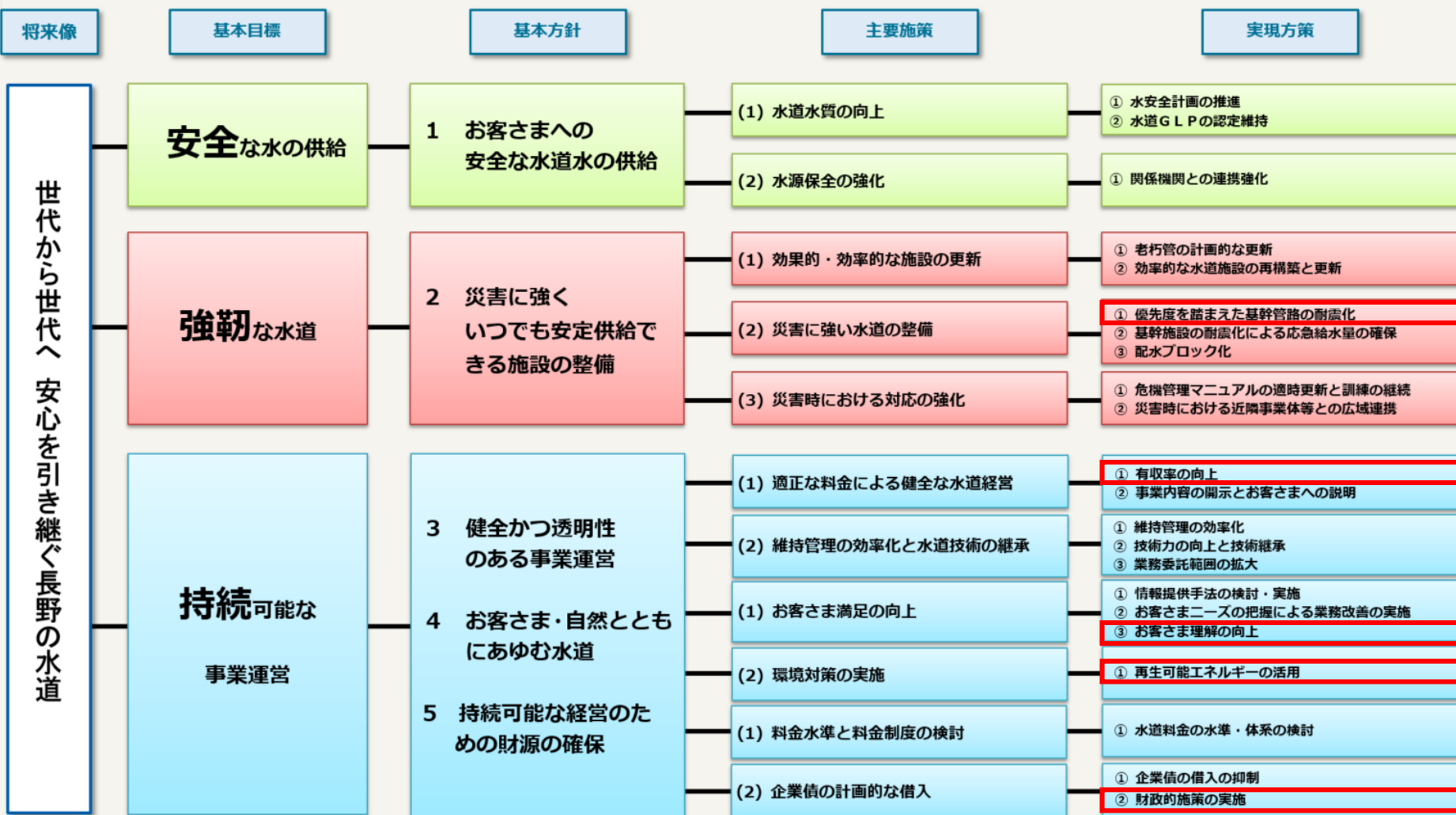
(4)長野市上下水道事業経営審議会の答申

水道事業経営戦略について長野市上下水道事業経営審議会に諮問したところ、事務局で作成した「長野市水道ビジョン・水道事業経営戦略(案)」が適当との答申を受ける。

2 将来像と方針

4

将来像は、社会環境が変化する中であっても揺るがない基本的方向性を示すものであることから、平成21年に策定した「長野市水道ビジョン」の将来像を引き続き継承する。



※赤枠は重点的に取り組む内容(P6～7で説明)

(1) お客さまへの安全な水道水の供給

精度の高い水質検査体制を維持し、安全で安心な水質を確保する。

(2) 災害に強くいつでも安定供給できる施設の整備

老朽管の更新を計画的に実施し、施設の更新に当たっても適正な規模に再構築するなど効率的に実施する。水道の安定的な供給のため、施設や管路の耐震化を計画的に実施する。

(3) 健全かつ透明性のある事業運営

適正な料金設定を行うとともに、有収率の向上を図る。
研修の充実等により水道事業の維持管理に必要な技術の継承に努める。

(4) お客さま・自然とともにあゆむ水道

水道事業への理解と関心を深めていただくため、ホームページやSNS、広報誌などにより情報提供の充実を図る。また、再生可能エネルギーの効率的な利用を図り環境負荷の低減を図る。

(5) 持続可能な経営のための財源の確保

より一層の経営の効率化を図るとともに、定期的に料金の見直しを行い、老朽管解消や耐震化などに必要な留保資金を確保する。

将来像を実現するための実現方策として、主に以下の項目について重点的に取り組む。

(1)優先度を踏まえた基幹管路の耐震化

基幹管路については、災害や事故の発生により断水した場合の影響が大きいことから、老朽管解消事業の中で、優先的に耐震化を進める。

配水支管については老朽管の更新に併せ耐震化を進める。

(2)有収率の向上

衛星画像解析を用いた漏水調査及びAIによる管路の劣化診断などを活用して、漏水箇所の修繕と老朽管の計画的な更新により、漏水量を低減し、有収率の向上に努める。

また、施設の更新計画や経営状況等を勘案し、事業継続のための適正な料金を設定するとともに、収納率の向上に努める。

(3)お客さま理解の向上

7

昨今、大規模地震等の災害により、全国各地で断水被害が相次いでおり、重要なインフラの一つである「水道」の重要性が増している。

そのため、「蛇口をひねれば水が出る」という当たり前の大切さについてお客さまに広報をし、水道への関心を高め、お客さまとともに本市の水道を守っていくという風土を醸成していく。

(4)再生可能エネルギーの活用

設備の更新時にインバータ機器等による効率的な設備を導入することにより、エネルギーの効率的利用を図るとともに、太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用を検討し、環境負荷の低減を図ることで、持続可能な世界を実現するために設定された目標であるSDGsの達成に寄与する。

また、浄水時に発生する浄水発生土の有効利用(セメント原料、園芸改良土)についても、引き続き取り組む。

(5)財政的施策の実施

これまで積み立ててきた「修繕引当金」を使用することで、利益を確保しながら必要な修繕を実施。

また、企業債の元金償還における据え置き期間をなくし、利息の総支払額の圧縮を図る。

基本方針を実現するため、実現方策が円滑かつ堅実に行うことができるよう、横断的に以下の項目に取り組む。

(1)民間の資金、ノウハウの活用

将来にわたり上下水道事業を安定的に維持していくため、サービスの維持向上、コスト縮減などの具体策について、関係する職員(複数の課にわたる)により具体的な調査、研究、検討を行う。

(2)水道事業の広域化・広域連携の推進

水道事業の基盤強化を図るため、長野県企業局、上田市、千曲市、坂城町、長野市で検討を行っている広域化について、引き続き検討を進める。

(3)IoT・DXについて

スマートメーター導入の検討を行うとともに、衛星画像解析を用いた漏水調査、AIによる管路の劣化診断のほかにもデジタル技術の活用により更なる維持管理の効率化を目指す。

(1)R7～R16までの10年間の主な投資内容

老朽管の更新など、水道施設整備計画に基づき整備を推進

内容	計画期間(10年間) の主な投資額(億円)	説明
老朽管の更新 基幹管路の耐震化	220	・管口径をダウンサイジングするとともに、 基幹管路の耐震化を優先しながら、更新事業費を平準化して計画的に実施します。
基幹施設の整備	42	・夏目ヶ原浄水場の廃止可能性を踏まえ、犀川-夏目間の送水管更新工事を実施します。 ・基幹管路の2系統化に伴い、若槻東条地区にポンプ場を新設します。
配水池の耐震化	90	・震災時も給水が行えるように、老朽化が進む配水池の更新や耐震補強を実施します。
地下水利用の推進	4	・犀川浄水場などの井戸ケーシング更生工事等を実施し、地下水利用を推進します。

指標名	現状(R5)	目標(R16)	具体的取組
有収率	85.5%	90%	老朽管の更新により漏水の発生を抑制する。
管路経年化率	30.2%	24%	老朽管更新事業を投資の柱として積極的に実施。
基幹管路耐震化率	44.0%	56%	基幹管路の耐震化を老朽管の更新に併せて優先的に実施。
配水池耐震施設率	40.3%	66%	耐震基準を満たしていない配水池について耐震補強を実施する。
経常収支比率	118.8%	110%以上	より一層の経営効率化を図りながら、水道料金体系等について検討を行う。
料金回収率	115.1%	107%以上	経営の効率化を図りながら、水道料金等の改定について検討する。

- ・**募集期間** 令和7年1月22日(水)から令和7年2月21日(金)まで
- ・**計画(案)の閲覧及び「意見・提案用紙」配布窓口**
上下水道局総務課及び水道関係機関、行政資料コーナー、各支所、市ホームページ
- ・**意見の提出方法**
電子申請(市ホームページ「ながの電子申請サービス」から)、Eメール、郵送、ファクシミリ、持参による提出(指定の用紙による)
提出先:上下水道局総務課ほか配布窓口
- ・**意見等の公表**
提出いただいた意見等への個別の回答は行わない。
後日、検討結果をホームページなどにより公表する。

今後の予定について

月日	スケジュール内容
令和7年1月14日	政策説明会
令和7年1月15日	定例記者会見
令和7年1月22日～令和7年2月21日	パブリックコメント
令和7年3月下旬	第6回上下水道事業経営審議会
令和7年4月(予定)	部長会議 公表